

## より優れたコンテナ苗を目指してシンポジウムを開催

### 〔森林技術・支援センター〕

8月21日、中部森林管理局と岐阜県共催で、岐阜県下呂市民会館において、「優良ヒノキコンテナ苗の普及に向けたシンポジウム」を開催、岐阜・長野・愛知県からコンテナ苗生産者、林業事業体、行政担当者等約110名が参加しました。

中部森林管理局と岐阜県では、平成26年度から優良ヒノキコンテナ苗の普及に向けた実証試験を共同で重ね、毎年検討会を実施してきました。

今年度は、試験研究を重ねて五年目になることから、優良ヒノキコンテナ苗の開発と普及をテーマにシンポジウムを開催しました。

基調講演では、国立研究開発法人森林総合研究所の宇都木研究ディレクターから、「全国的なコンテナ苗研究の最新の動向」と題して、再造林の考え方からコンテナ苗の未解決課題(播種(はしゅ)、育苗、植栽成績など)について、また、岐阜県森林研究所の茂木主任専門研究員から、「低コスト再造林を推進するための岐阜県にあったヒノキ苗の開発」と題して、植栽効率の良い根鉢の短いコンテナ苗の開発などについての講演をしていただきました。



容器から抜かれたコンテナ苗

(左側ヒノキ、カラマツ、カラマツ)



宇都木氏の基調講演

パネルディスカッションでは、コンテナ苗を作る側、植える側による現場の意見や行政の意見、今後の再造林に求められるヒノキコンテナ苗についての意見交換が行われました。

今後も関係機関と連携してコンテナ苗の試験調査・普及に努めて参ります。